

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

学校支援地域本部事業の成果と課題(岩手県宮古市)

取組事業

学校支援地域本部事業

活動実施場所

山口小学校 津軽石小学校 新里小学校
宮古西中学校

取組概要

【学校支援地域本部事業】

平成20年度に市内で最初に開始した山口小学校をはじめ、平成28年度現在3小学校と1中学校で事業を実施している。なお、新里小学校は今年度学校統合により新たに誕生した学校である。

○主な活動

- ・山口小学校:交通安全指導、読み聞かせ、図書室整備、部活動支援、環境整備、行事補助(マラソン大会補助等)、授業補助等
- ・津軽石小学校:読み聞かせ、登下校安全指導、環境整備、さんさ踊り伝承活動、授業補助(新巻鮭作り、家庭科補助等)等
- ・新里小学校:人材や地域資源の情報の把握及びリストの作成、活動の周知等
- ・宮古西中学校:学習支援(特別支援学級授業補助等)、図書室整備、環境整備、登下校安全指導等



地域ボランティアを講師としたちぎり絵教室の様子(山口小学校)

事業成果

【学校支援地域本部事業】

- 公営住宅の完成や復興道路整備の進捗、被災した公民館の復旧など、学校周辺の環境が常に変化している中で、地域住民により学校支援活動が行われることで、学校や子ども達の学習活動が充実し、コミュニティの復興促進に寄与している。

現在まで継続して事業を実施している学校におけるボランティア登録人数は1校当たり平成26年度は38.5人、平成27年度は43人、平成28年度は11月時点で43.3人と、増加傾向にある。

〈ボランティア登録者数〉

学校	平成26年度	平成27年度	平成28年度
山口小学校	50人	50人	50人
津軽石小学校	未実施	47人	48人
宮古西中学校	27人	32人	32人
新里小学校	平成27年度まで本事業を実施していた2校を含む4校が平成28年度に統合し誕生		未登録

課題や今後の取組

(課題)

- アンケートによると、全ての事業関係者(学校、地域、家庭)が学校と地域の連携が、学校教育にも地域の活性化にも寄与することを強く認識している。その一方で、連携の度合いは学校により大きく異なり、同じ学校内でも教員と地域住民、保護者により連携に対する考え方は多様である。各立場の認識を改めて共有し、協働していくことが必要である。
- 新たな支援可能分野を洗い出し、内容の充実に努めるとともに、現在事業を実施していない学校への情報提供や紹介、事業の新規開始に繋げる必要がある。